

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まめの木		
○保護者評価実施期間	2026年 10月 1日	～	2026年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 44名	(回答者数)	34名
○従業者評価実施期間	2026年 10月 1日	～	2026年 10月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9名	(回答者数)	9名
○訪問先施設評価実施期間	2026年 11月 1日	～	2026年 12月 26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性を持った職員が訪問を行っている	訪問先の状況に応じた支援の方法や環境設定について伝えられるよう、児童発達支援に長く従事した有資格者職員が訪問している。	引き続き、研修等に参加しながら資質向上に努める。
2	訪問後は報告書を作成し、子どもの様子を保護者や訪問先と共有している	報告書を作成する際に、活動内容だけではなく先生方の言葉がけや利用児の発言も記載している。訪問先より許可が得られれば写真も掲載し様子が伝わりやすいようにしている。また、支援の仕方や配慮事項についても記載している。	今後も、保護者や訪問先に伝わりやすい報告書になるように心がける。
3	児童発達支援事業との多機能型で運営を行っている	利用児の療育での課題に取り組む姿や支援方法等を訪問先の先生方に伝え、共有している。またそれにより、保護者と訪問先とのコーディネーター的役割を心がけている。	児童発達支援の指導員から利用児の様子を聞き取り、頑張っている場面や課題について訪問先の先生方と共有できるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問後のフィードバックを時間をかけて行うことが難しく、個別支援計画書に訪問先の先生方の意見を取り入れていないことがある	訪問直後は、保育中や授業中のため先生方と話すことが難しいと考える。	フィードバックの方法として、対面以外に電話やオンライン（ZOOM等）でも行えることを訪問先の先生方に周知していきたい。そして、個別支援計画書に先生方の意見を盛り込むようにする。
2			
3			